



横浜市情報教育ネットワーク(YY ネット)上に本校のホームページがあります。

URL : <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/utsukushi gaoka/>

学校長 松瀬 歩  
青葉区美しが丘2丁目29  
電話(901)3408

思いがけないご褒美

校長 松瀬 歩

朝夕は冷え込み、冬の訪れを感じるようになりましたが、今年は未だ木枯らしの到来がなく、このまま冬を迎えそうです。保護者の皆様には、演技発表会、土曜参観におきましてご理解・ご協力いただき感謝申し上げます。おかげさまをもちまして、滞りなく実施することができました。

振り返れば、夏休み以降、このコロナ禍で、運動会や土曜参観を開催するべきかという議論を重ねてきました。運動会について、中止の方向で話が進み始めたときに、ある職員から「コロナ禍で、たくさん我慢を強いられている子どもたち。何とかして実現できる方向で考えられないだろうか。」という意見が出され、その職員の思いに職員全体が動かされました。

美小では、運動会の意義を「一生懸命に頑張っている仲間を励まし応援し、共に喜びや悔しさを分かち合う」ことを第一として、全員参加、一斉開催を前提に実施する方法を考えてきました。

「移動を少なくするために、開閉会式、準備運動は応援席でできないだろうか。」

「体操するとき椅子は邪魔だから、椅子の代わりにレジャーシートを敷いて子ども同士の間隔を広げよう。」

「仲間との一体感を味わうために応援は必要。」

「応援団は2m以上の間隔をあけて、児童席の子どもは声を出さずに拍手やウェーブのみの応援にしよう。」

「児童席を広くとることによって、保護者席の確保が難しくなる。」

「子どもの活動を優先し、三密を避けるために申し訳ないが保護者の参加は遠慮してもらうのはどうか。」

「保護者にせめて演技だけでも見てもらいたいので、発表会をやってみてはどうか。」

「三密を避けるために子どもや保護者の動線をどうするかが課題。」

等の議論を重ね、実施する運びとなりました。

演技、リレー、応援の練習が始まりました。縮小開催にもかかわらず、子どもたちの運動会に向けた熱は高く、まさに熱中という言葉が当てはまるような姿がたくさん見られました。そして、運動会当日、子どもたちは精一杯走り、全身全霊の演技を披露しました。結果は5点の僅差で赤組の勝利に終わりましたが、本気で喜び、悔しがり、認め合う姿に心が震えました。

そして、閉会式で児童代表児童の

「～今年は運動会ができないと思っていました。～運動会ができたのは先生たちのおかげです。ありがとうございました。」

の言葉に、我々職員全員の心が熱くなりました。コロナ禍において、満足な取組ができなくて申し訳ないと思っていた我々職員にとって思いがけない子どもたちからのご褒美でした。そして、私からは

「コロナが流行している中で、こんな素晴らしい運動会ができたのは、6年生を中心にして、みんなで頑張ったからです。～それぞれの演技の素晴らしかったところを伝えました～」

と返しましたが、子どもたちへのご褒美になってくれれば幸いです。

今年の運動会を通して、学年を越えた仲間と共に同じ目標に向かって一生懸命取り組むよさを改めて強く実感しました。新型コロナウイルスの感染者が急激に増加してきている中ですが、これからも、感染防止にしっかり努めながら、子どもたちにとって大切なことは何かをしっかりと考え教育活動に取り組んでまいります。引き続き、ご理解・ご協力のほど、お願い申し上げます。